



2014

広島県補助事業：＜高大連携による留学支援講座＞  
平成26年度 大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業  
■実施事業報告

# to Study Abroad



HIROSHIMA JOGAKUIN UNIVERSITY



What is the PEACE?



Why is it Important?



「真の国際人」として  
広島から「世界平和」を

● 湊 晶子  
広島女学院大学 学長

ごあいさつ

広島県補助事業の一つとして2012年度から始められた「高大連携による留学支援講座」は、今年をもって一区切りをつけ、新しい展開が期待されています。日本人としてのアイデンティティをもちつつ高校生から大学生までの年齢の差を超えて、世界に通用する人格を育てようとして始められたこのプログラムをその目的を果たして一旦終了できますことは感謝です。

原爆の悲惨な爪痕から現代に語りかけるメッセージを肌で感じつつ、21世紀の世界平和にいかに関与できるかを真剣に問うておられる高校生と大学生の姿に接し、戦争の悲惨さを知るものとして未来への大きな期待をもちました。

機銃掃射でばたばたと倒れていく友人たちの中で、米兵と目が合いつつも撃ち殺されなかった私のいのち、80歳を過ぎて広島の地から平和の発信に少しでも捧げたいと四月から広島女学院大学に赴任し、この素晴らしいプロジェクトに接することが出来、心から感動しています。これから世界平和の絆を築いてくださる若い皆様に心から期待しています。

国際空港はInternational Airport、国際会議はInternational Conferenceと対応する英語があるのに、「国際人」はInternational Manと英語にならない日本語があるところに日本人の国際感覚の弱さを感じます。日本人として先ず「ぶれない自己」を確立し、その上で討論できる英語力を身に付けて初めて「真の国際人」と言えるでしょう。この広島から世界平和のために日本の役割を果たしていただきたいと願って止みません。

このプログラムを可能にしてくださいました先生方、県の皆様、また参加して下さった高校生・大学生の方々に心から感謝いたします。有難うございました。



## 講座の開始にあたって

● 湯崎英彦 広島県知事

ごあいさつ

受講生の皆さん、こんにちは。  
広島県知事の湯崎です。

大学連携による新たな教育プログラムの実施に当たり、皆さんに私からのメッセージをお伝えしたいと思います。

現在、本格的な少子高齢・人口減少社会の到来やグローバル化の進展など、社会経済状況が大きく変化する中で、新たな価値を創造する人材や海外市場の開拓に必要な人材などが求められているところです。

広島県では、平成23年度から、充実した教育環境を構築するため、複数の大学が産業界などと連携して行う新たな教育プログラムの開発や実施を支援しており、今年度もグローバル人材育成などの質の高いプログラムを用意しています。

プログラムに参加されている皆さんは、それぞれの問題意識の中、積極的に学ぼうとする意欲的な方々がお集まりのことと思います。

講義を通じてグローバルな視点を養うとともに、普段共に学ぶ機会の少ない様々な方とフィールドワークやディスカッションをしながら交流を進め、自己研鑽につなげていただきたいと思います。

皆さんには、学びたい、成長したいという今の気持ちを持ち続け、日々努力を重ねていただくとともに、一人ひとりが主役となって新しい価値の創造に挑戦する姿勢を持ち、今後、社会の中で活躍していただきたいと願っています。

それでは、これからプログラムがスタートしますが、皆さん、共にがんばりましょう。

\* 上記は、講座の開始に当たり、湯崎広島県知事から受講生へ向けて届けられたビデオメッセージです。

## <受講生の声>



● 佐々木香奈栄さん  
● 平賀日奈子さん  
● 藤井千祐子さん

・広島県立広島国泰寺高等学校 1年

この講座のことは学校で知り、私たちは留学に興味があったため、参加を決意しました。この講座に参加したことで、海外の文化はもちろん、自国の文化を知ることも大切さ学ぶことができました。様々な視点から物事を見つめるという力を身につけることができました。現代のグローバル社会で活躍できるようになりたいと改めて強く感じました。これからの学校生活や留学で、この講座で学んだことをしっかりと発揮し、少しでも社会に貢献できたらと思います。



● 中川 葵さん

・広島県立広島観音高等学校 1年

私は、学校でこの講座について知りました。もともと留学に興味があったので参加することに決めました。このプログラムは様々な講義があり、文化、宗教、平和、音楽など、色々な角度から自分の視野を広げることができました。また、それによって、海外に対する親しみが湧き、留学への意識も高まりました。さらにこの機会を通して知り合った人たちとの交流を深めることができたのも、とても貴重な体験でした。



● 森脇美帆さん  
● 森脇瑞希さん

・広島女学院高等学校 2年

留学支援講座と聞いていたので世界についてばかりを英語で学ぶのかと思っていましたが、自分たちの日本文化について学ぶ機会が多かったように思います。グループでプレゼンする中で、様々な人と交流することができました。

この講座では私は様々な事を学びました。初めは英語での授業があると聞いていたので大変そうだと思っていましたが授業は楽しく難しい事にも挑戦してみるいい機会になりました。海外のこと日本の文化について自分の知識を深められたのでこの講座に参加できてよかったです。



● 中島美幸さん

・広島女学院大学国際教養学部 1年

2014年4月から広島女学院大学GSEメジャーで勉強しています。将来は外国人のビジネスパートナーと、社会が求めている分野で重宝される人財になりたいです。この講座を通じて、仲間と協力してプロジェクトを仕上げる楽しさ、海外に出る前に日本人として知っておくべき知識に触れることが出来ました。また外国人と対等に話すために必要な諸外国の事情を教えてくださいました。来年は留学します。有難うございました。



● 谷本理紗さん

・広島女学院大学人間生活学部 2年

私がこの講座への参加を決めたのは海外研修での経験でした。充実した日々の中、外国で相手に自分の意思を伝える難しさ、知識の少なさに気づきました。講座では国内外問わず、幅広いテーマに取り組みました。すべて英語で行うものもあり、海外にいるような雰囲気さえ感じました。年齢や言語を越えた仲間とのコミュニケーションによって、さまざまな「視点」を発見できたことも大きかったです。私は大学で食について学んでいます。食を通じ、言語や文化を越えた世界中の人々を幸せにすることが目標です！



● 松田麻奈さん

・広島女学院大学人間生活学部 2年

説明会に出席し、短期間ではありますが県内の各分野専門の先生方により様々な視点から日本・海外について授業が行われるということで興味を持ち受講を決めました。この講座において、知識のベースづくりだけでなく、考え方についても学ぶことが出来ました。また、視野を広げ物事のつながりを知る大切さを感じました。将来についても考える、刺激的で有意義な時間となりました。



● 廣中亜弥さん

・広島女学院大学国際教養学部 1年

高校時代から留学に興味があり、今回の企画は絶好の機会だと思い参加しました。この企画を通して、海外の方に説明できる日本文化の知識を身につけることができました。広島に住む者として大切な平和のことや日本とは違う文化・習慣・考え方も深く学ぶことができます。海外に行った際、自国のことを紹介できなかつたら恥をかきます。留学を考えている人、海外に興味のある人、ぜひ参加してみてください。絶対に損はしません！



● Isooda Ajdariさん

・広島女学院大学国際教養学部 1年

週末の空き時間を有効的に使いたいと思い、この講座に参加しました。この講座では、音楽から政治まで、色々なテーマでの基本的な知識を身につけることができます。受講生は毎週講座で顔を合わせ友達になります。私はイラン人です。みんなは私の国について質問し、また日本についての私の疑問にも答えてくれました。講座は終了しましたが、受講生同士、未だにメールでやりとりしています。

Study Curriculum

広島県補助事業：<高大連携による留学支援講座>

平成26年度 大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業

- ・実施大学：広島女学院大学(代表校)、県立広島大学、エリザベト音楽大学、広島国際大学
- ・関係団体：広島県公立高等学校長協会、広島県私立中学高等学校協会校長会、広島女学院中学高等学校  
一般財団法人ひろぎん経済研究所
- ・実施期間：2014年5月17日(土)から6月15日(日)まで

■ 参加者

・参加人数 39名

<内訳> [高校生] 12名(女性11名、男性1名) [大学生] 27名(女性27名)  
(所属高校)：広島県立広島国泰寺高等学校、広島県立広島観音高等学校、広島県立安芸府中高等学校、広島県立黒瀬高等学校、山陽女学園高等部、広島女学院高等学校  
(所属大学)：県立広島大学、広島女学院大学

■ 講座コンセプト

目指せ、留学！  
羽ばたけ広島！  
高大連携で若者を世界へ。

[DVD視聴による受講について]

本講座では、学校行事等で当日の受講参加が困難な受講生に対して、一部の講義を除き(\*)講義を録画したDVDの視聴による受講を可能とした。  
(\*)グループワークやフィールドワーク、音楽についての講義、古典出席など参加体験型の講義については、当日出席による受講のみとした。

[講座の目的]

本講座は、広島県内の留学を目指す高校生、大学生を対象として、留学への不安を解消し、その効果を高めるための準備をすることを目的とした。

- 具体的には、下記2点を到達目標とした。
- ①留学する前に必要とされる多分野における知識(日本及び広島文化・歴史、世界を取り巻く問題に関する基礎知識と世界における日本の位置づけ、世界の宗教と文化、戦争と平和など)を得る。
  - ②プログラムを通して得た知識をもとに、自分の意見を持ち、相手に伝えることができるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成を行い、スムーズに留学生活を送るための準備を整える。
- また、ワークショップやプレゼンテーションでは、大学生・高校生の混成グループを編成することで、英語学習意欲や留学への意欲の向上も目指す。

[単位認定について]

本講座は、一般社団法人教育ネットワーク中国の単位互換科目とし、単位認定が可能な大学生及び高校生には、単位認定を行った。

[授業計画(カリキュラム内容)]

回	開催日	講義/講師名
1	5月17日(土)	『海外留学総論』 Courtney Lawrence (広島女学院大学)
2	5月17日(土)	『異文化コミュニケーション』 Courtney Lawrence (広島女学院大学)
3・4	5月18日(日)	『宮島で日本文化について考えよう』 秋山伸隆・大知徳子 (県立広島大学)
5	5月24日(土)	『国際情勢の読み方=アラブ世界の現実をケーススタディに』 浅沼 潤 (広島国際大学)
6	5月25日(日)	『Why we fight and how to stop 一争う理由と終える方法』 Steven Leeper (広島女学院大学)
7	5月25日(日)	『IAMSCU CONFERENCE 2014 Opening Liturgy』 澤村雅史・Courtney Lawrence (広島女学院大学)
8	5月31日(土)	『グローバル経済の光と影』 小松正昭 (広島女学院大学)
9	5月31日(土)	『世界と宗教』 澤村雅史 (広島女学院大学)
10	6月 7日(土)	『欧米文化における音楽—キリスト教音楽を中心に—』 佐々木悠 (エリザベト音楽大学)
11	6月 7日(土)	『雅楽で感じる伝統文化』 片桐 功 (エリザベト音楽大学)
12・13	6月15日(日)	『ワークショップ・発表準備』 Courtney Lawrence (広島女学院大学)
14・15	6月15日(日)	『プレゼンテーション・総評』 Courtney Lawrence (広島女学院大学)

1

第1回 [海外留学総論]

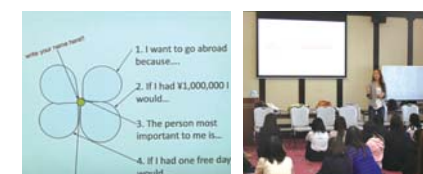
<担当講師> Courtney Lawrence(広島女学院大学/専任講師)  
<開講日時> 2014年5月17日(土) 14:40~16:10  
<場 所> サテライトキャンパスひろしま 504中講義室  
<授業形式> 対面講義、グループワーク  
<使用言語> 英語 <参加人数> 36名(他DVDでの受講1名)  
<内 容> 講座の開始に当たり、湯崎英彦広島県知事からのビデオメッセージを視聴した。その後、参加者全員が英語で自己紹介(出身学校・行きたい国・海外へ行ったことがあるか等)を行った。また、擬音とジェスチャーのみでボールを運ぶゲームや言葉を使用せず誕生日順に並ぶアクティビティに挑戦し、言語以外でのコミュニケーションの方法を体験的に学んだ。



2

第2回 [異文化コミュニケーション]

<担当講師> Courtney Lawrence(広島女学院大学/専任講師)  
<開講日時> 2014年5月17日(土) 16:20~17:50  
<場 所> サテライトキャンパスひろしま 504中講義室  
<授業形式> グループワーク  
<使用言語> 英語 <参加人数> 36名(他DVDでの受講1名)  
<内 容> 様々な人と様々な方法でコミュニケーションをはかるためのアクティビティをいくつか行った。海外へ行きたい理由、もし100万円あれば何をするか、自分にとって最も重要な人物は誰かなど、2人一組に分かれて互いに英語で会話した後、グループ全員の前で相手を紹介し合った。講義を通して異文化コミュニケーションとは何かを学び、留学における様々なシチュエーション別に3つのグループに分かれて劇を作成し、発表した。文化や生活習慣の違いを学び、コミュニケーションの必要性を考えることができた。

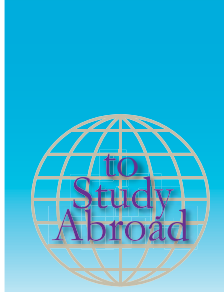


3

第3・4回 [宮島で日本文化について考えよう]

<担当講師> 秋山伸隆(県立広島大学 教授/副学長)  
大知徳子(県立広島大学 宮島学センター/助教)  
<開講日時> 2014年5月18日(日) 10:30~15:00  
<場 所> 宮島  
<授業形式> フィールドワーク  
<使用言語> 日本語 <参加人数> 37名  
<内 容> 宮島到着後、2グループに分かれ島内散策を行った。1グループは誓真釣井・要害山から、町家通りを抜けて幸神社を通るルート、もう1グループは日本三景の碑を見学した後、波打ち際を通り石垣、狛犬の説明を聞きながら海岸通りを抜けるルートで、五重塔・千畳閣を目指した。その後、厳島神社、大願寺、紅葉谷を巡り、建築や文化財、宮島の歴史について学んだ。神仏習合と神仏分離、広島と宮島の歴史、海外の人々から見た厳島神社、世界遺産の一つである厳島神社を地域の人々がどのように守り伝えていくのか、実際に訪れることでその地の歴史や文化を感じ、学ぶことができた。





5 第5回 [ 国際情勢の読み方＝アラブ世界の現実をケーススタディに ]

〈担当講師〉 浅沼 潤(広島国際大学 国際交流センター長/特任教授)  
 〈開講日時〉 2014年5月24日(土) 14:40～16:10  
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室  
 〈授業形式〉 対面講義  
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 36名  
 〈内 容〉 2011年1月にチュニジアを発火点として始まった「アラブの春」と呼ばれるアラブ世界の大変革が、どこへ向かおうとしているのか。独裁政権に代わりアラブ世界の新たな支配者として台頭するイスラム原理主義者。なぜ彼らがアラブ民衆の支持を受けるのか、その根底にある大きな歴史の流れを知り、さらにアラブ世界の現実を理解し宗教と民族の関わりを考えると、国際社会のダイナミズムに興味を持ち、その流れを読む目を養った。



6 第6回 [ Why we fight and how to stop —争う理由と終える方法— ]

〈担当講師〉 Steven Leeper(広島女学院大学/客員教授)  
 〈開講日時〉 2014年5月25日(日) 14:00～15:30  
 〈場 所〉 広島女学院中学高等学校 中学校舎第1AV 教室  
 〈授業形式〉 対面講義  
 〈使用言語〉 英語(日本語) 〈参加人数〉 34名(他DVDでの受講2名)  
 〈内 容〉 戦争が蔓延する世界に生きる私達は、自らの足で絶滅への道を進んでいる。戦争とは何か、平和とは何か、続く支配と戦争の社会を平和の社会へ移行させる方法はあるのか。戦争文化と平和文化の本質的な違い、戦争が始まり、そして終わらない現実とその原因をバイリンガル講師から英語、日本語の両方で学んだ。また、核兵器や原発の危険性を再確認すると共に、それらを必要としない社会を創るために、私達は何をするべきかを考えた。



7 第7回 [ IAMSCU CONFERENCE 2014 Opening Liturgy ]

〈担当講師〉 澤村雅史(広島女学院大学/准教授)  
 Courtney Lawrence(広島女学院大学/専任講師)  
 〈開講日時〉 2014年5月25日(日) 16:00～18:00  
 〈場 所〉 広島女学院中学高等学校 ゲーンホール  
 〈授業形式〉 参加型  
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 34名  
 〈内 容〉 IAMSCU ( International Association of Methodist-related Schools, Colleges, and Universities メソジスト関係学校国際連盟)の世界大会が広島で開催されるにあたり、その開会式に出席した。世界各国からの出席者による英語でのスピーチを始め、進行や歌も全て英語で行われた。今まで経験したことのない、国際的な会議に実際に同席して、その雰囲気味わい、そこで行われていることを見聞きすることによって、国際的なコミュニケーションの現場を知ることができた。



8 第8回 [ グローバル経済の光と影 ]

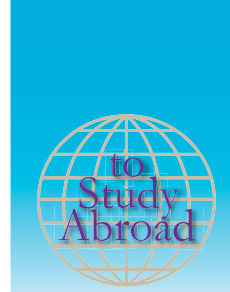
〈担当講師〉 小松正昭(広島女学院大学/特任教授)  
 〈開講日時〉 2014年5月31日(土) 14:40～16:10  
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室  
 〈授業形式〉 対面講義  
 〈使用言語〉 英語(日本語) 〈参加人数〉 32名(他DVDでの受講3名)  
 〈内 容〉 グローバル化した世界の下では、われわれの生活は先進国経済とも発展途上国経済とも密接に結び付いており、経済問題がより複雑化している。グローバル化した世界経済は、お互いにプラスの影響を与えるが、時としてマイナスの影響を与えることもある。この講義では、グローバル経済の光と影を考え、ユーロ危機などのグローバルな経済事象に関する理解を深めた。またこれらの問題解決において、その糸口となるのが、宗教、文化、経済、政治利益などを越えた統合的なアプローチであることを知った。



9 第9回 [ 世界と宗教 ]

〈担当講師〉 澤村雅史(広島女学院大学/准教授)  
 〈開講日時〉 2014年5月31日(土) 16:20～17:50  
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室  
 〈授業形式〉 対面講義  
 〈使用言語〉 英語(日本語) 〈参加人数〉 32名(他DVDでの受講3名)  
 〈内 容〉 まず、「宗教」に対するそれぞれの受講生が持つイメージを共有した。そして、宗教に関する身近な事象や例を取り上げ、その位置づけを知ることができた。また日本人の宗教観の特徴について理解し、その限界や短所とともに、可能性や長所についても考えることができた。宗教的世界観と科学的世界観との出会いの中に生きるという人間理解を出発点とし、「常識」とは何か? その「常識」にとられない批判的思考について考えた。今回の講義を通じて、宗教をより身近なものと感じ、その大切さと影響力を学んだ。





10 第10回 [ 欧米文化における音楽 —キリスト教音楽を中心に— ]

〈担当講師〉 佐々木悠(エリザベト音楽大学/専任講師)  
 〈開講日時〉 2014年6月7日(土) 14:40~16:10  
 〈場 所〉 エリザベト音楽大学 セシリアホール  
 〈授業形式〉 対面講義  
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 32名  
 〈内 容〉 キリスト教音楽について、その歴史や文化的背景、キリスト教以外の宗教や日本音楽との関連性の他、教会で演奏される宗教音楽について理解を深めた。構造やその歴史を本物のパイプオルガンを見ながら学んだ。その後、実際にオルガンの本体や鍵盤に触れ、オルガン内部に入りその圧倒的な存在感を感じると同時に、欧米文化における音楽、特にキリスト教音楽への理解を深めた。また、日本に存在するパイプオルガンや、世界最大のものについても知ることができた。最後に、佐々木先生による生演奏で、オルガンの音色を聞きながら講義を振り返り、文化と宗教のつながりについて、より深く考えることができた貴重な時間となった。

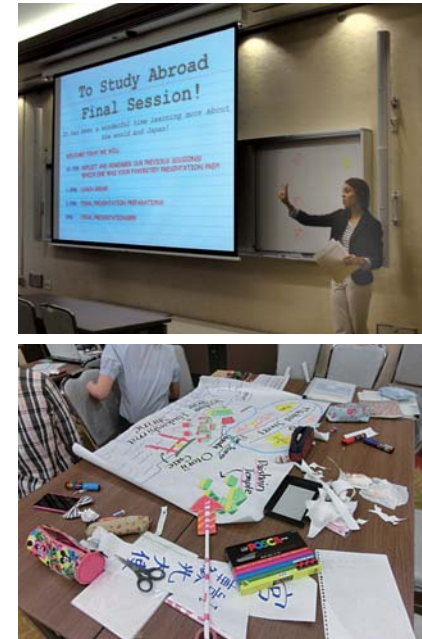


11 第11回 [ 雅楽で感じる伝統文化 ]

〈担当講師〉 片桐 功(エリザベト音楽大学/教授)  
 〈開講日時〉 2014年6月7日(土) 16:20~17:50  
 〈場 所〉 エリザベト音楽大学 506教室  
 〈授業形式〉 対面講義  
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 32名  
 〈内 容〉 日本の伝統文化として継承されている雅楽を、その歴史や変遷を学ぶことで、雅楽とは何か、そして伝統文化とは何かを考えた。宮島の巖島神社には雅楽が伝わっており、年中行事として様々な機会に行われている。その中でも特に「桃花祭」について、実際の映像等を通して体感的に学んだ。雅楽のルーツをはじめ、唐楽と高麗楽(二部伎制)の違い、演奏される楽器の種類や配置などの知識を深めた。また、鉦鼓、鞆鼓、太鼓の3パートに分かれ、机でリズムを刻み、その後DVDで実際の演奏を鑑賞することで、より身近に雅楽を捉えることができた。



12 13 第12・13回 [ ワークショップ・発表準備 ]



〈担当講師〉 Courtney Lawrence(広島女学院大学/専任講師)  
 〈開講日時〉 2014年6月15日(日) 10:00~13:00  
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 501・502大講義室  
 〈授業形式〉 対面講義、グループワーク  
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 33名  
 〈内 容〉 この講義では、英語のアンケート用紙に講座全体に興味関心を持って取り組めた講義とその理由、また講座全体を通しての感想を全て英語で記入した。そうすることで、各講義の内容を振り返ることができた。受講生は最も積極的に学んだ講義にそれぞれ投票を行った後、その投票結果をもとに、3つのグループに分かれ、午後から行われる英語でのプレゼンテーションに向け準備を始めた。



14 15 第14・15回 [ プレゼンテーション・総評 ]

〈担当講師〉 Courtney Lawrence(広島女学院大学/専任講師)  
 〈開講日時〉 2014年6月15日(日) 14:00~17:00  
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 501・502大講義室  
 〈授業形式〉 グループワーク  
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 33名  
 〈内 容〉 『このプログラムで学んだことを、留学先の学生に説明・紹介する』というテーマでプレゼンテーションを行った。グループごとに決定した講義の内容を、パワーポイントや手作りで作成した小道具を使い、劇やクイズショーなどで、個性的なプレゼンテーションを行った。こうして、グループで一つのものを作成する過程で、高校生と大学生が助け合い、交流を深めることができた。プログラムから学んだことを再確認するとともに、今後どのように活かすのかを考え、留学への準備を整えた。最後に、講師による総評を行った後、一人ひとりに修了証を授与した。



## ■ 講座アンケート結果

### 1：アンケートの実施について

本プログラムは、参加者が自分の意見を持ち、それを相手に伝えることができるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を育み、スムーズに留学生活を送る準備ができるよう構成した。約1カ月間に15回の講義を実施し、各講義後にアンケート調査を実施した。さらにプログラム最終日には、講座全体に関するアンケート調査を行った。講義最終日に欠席した参加者にはアンケートを郵送した。

参加者39名のうち、33名の回答(回収率85%)を得た。その内訳は高校生9名(女性8名/男性1名)大学生24名(女性24名)であった。アンケートでは、[1]プログラム内容の理解、満足度等 [2]プログラムの学習効果 [3]留学に対する意識について、各5段階評価及び記述にて回答してもらった。アンケート結果の詳細は、以下のとおりである。

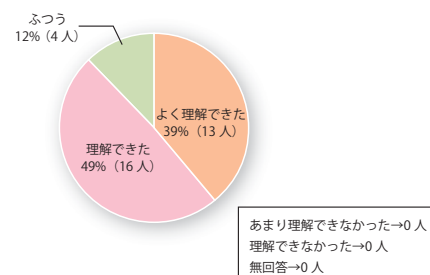
### 2：アンケート結果詳細

#### ▼ [1] プログラム内容の理解、満足度等

**Q1:** 「内容は理解できましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-①である。

“よく理解できた”“理解できた”と答えた回答者をあわせると88%である。また、“あまり理解できなかった”“理解できなかった”との回答がなかったことから、参加者にとって適切な授業内容であったと考えられる。

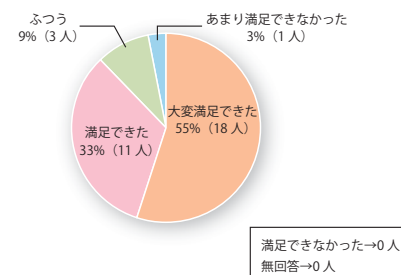
【図1-①】  
<内容は理解できましたか>



**Q2:** 「内容は満足できましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-②である。

“大変満足できた”“満足できた”と答えた回答者をあわせると88%であることから、内容は参加者にとって満足度の高いものであったと考えられる。

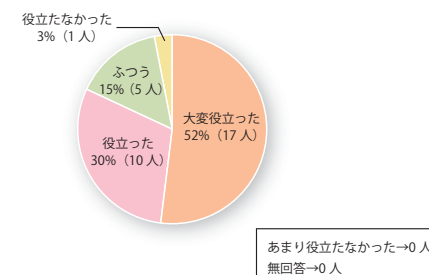
【図1-②】  
<内容は満足できましたか>



**Q3:** 「留学準備に役立ちましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-③である。

“大変役立った”“役立った”と答えた回答者をあわせると82%である。記述回答で、「留学するためには自国の文化を学ぶことも必要だとわかった」「留学した時に日本についての説明ができるようになった」と記入した回答者もいたことから、特に留学を考える参加者にとって、十分意味ある講座であったと考えられる。

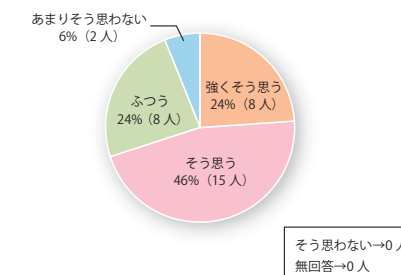
【図1-③】  
<留学準備に役立ちましたか>



**Q4:** 「英語による講義のレベルは適切でしたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-④である。

“強く思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると70%であるが、“あまりそう思わない”と答えた回答者は6% (2名)であることから、参加者は英語で行われた講義をほぼ理解できていたと考えて良いだろう。一方、「英語力をもっと上げないといけないと痛感した」「英語での説明の方が多く理解しきれなかった」と記載している回答者もあり、参加要件に一定の英語力をあげたことに正当性があったと考えられる。

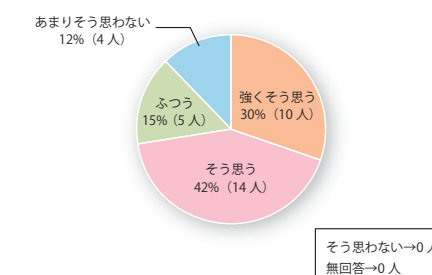
【図1-④】  
<英語による講義のレベルは適切でしたか>



**Q5:** 「英語力は向上したと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-⑤である。

“強く思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると72%で、“そう思わない”と答えた回答者がいなかったことから、約1カ月の短期講座ではあったが、英語力の向上を実感した回答者が多かったと考えられる。回答者の記述からも、「英語に対する学習意欲が強くなった」「英語での講義があり、自分のためになった」など、英語の講義や意見交換の中でモチベーションが上がったことがうかがえる。一方で、「思っているほど英語が使わなくて残念」と記入した回答者もいた。

【図1-⑤】  
<英語力は向上したと思いますか>



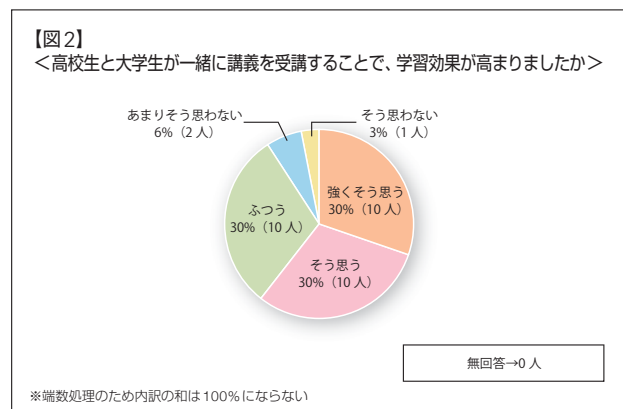
※端数処理のため内訳の和は100%にならない

■ 講義アンケート結果

▼ [2] プログラムの学習効果

**Q1:** 「高校生と大学生と一緒に講義を受講することで、学習効果が高まりましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図2である。

“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると60%で、半数以上の回答者が高校生、大学生混成のプログラム形態に学習効果を感じている。高校生からは、「普段話す機会がない人と話せた」との記載があり、逆に大学生からは「高校生もいて、いろいろな視点からの意見も出た」との記載があったことから、一定の成果があったものと考えられる。一方で、「高校生ともしっかり交流したかった」と記入した回答者もあり、参加者同士がより深く交流できるプログラム構成が求められている。



**Q2:** 「自分にとって最も興味のある講義とその理由を記載してください」

“第3・4回宮島で日本文化について考えよう”が最も多かった(回答者の55%が記載)。理由としては、「海外から来た人に説明できるくらいの知識を持てた」「広島人として勉強になった」等があった。“第6回 Why we fight and how to stop”と“第7回 IAMSCU CONFERENCE 2014 Opening Liturgy”が次に多く(回答者の15%がそれぞれ記載)、理由として、前者は「多くの人を知るべき問題だから」「ものを見方を考え直す良いきっかけとなった」など、後者は「大学生で国際会議に出席し、雰囲気を感じた」「異文化を体験できた」などが多かった。また、「画像・講義・実際にパイプオルガンに触るなど、多角的に学べた」という理由から“第10回欧米文化における音楽—キリスト教音楽を中心に—”も挙げられた。これらの回答より、受講者にとって、地域に根ざした、体験型学習が人気であったといえる。

**Q3:** 「今後改善を希望する講義があればその理由を記載してください」

経済や国際社会に関する講義に関して、「専門用語が多く、内容が難しいのもっと基礎的な事から知りたい」「とても難しかった」との意見が挙げられた。また、英語と日本語を併用した講義に関しては「日本語と英語両方で話したので内容が薄まった」との意見もあった。しかし、「もっと話を聞きたかった」「もっと多くの受講生と交流したい」などの、積極的な意見も多かった。これらの意見を参考に、プログラムの構成を再度検討するとともに、専門用語集などの補助資料の配布や参加者の事前学習の徹底が望まれる。

**Q4:** 「留学支援のためのプログラムの内容として、今回受講した講義以外に実施してほしい講義内容があれば記載してください」9名の回答者から以下の意見が出た。

- ・お茶・お花、書道など文化紹介する内容の物
- ・経済をEUのみだったのもっと詳しくやってほしい
- ・外国の人々の普段の生活について(身近な事)を知りたい
- ・外国人との交流が多くできる講義
- ・日本以外の国について知りたい(観光地、食べ物など)
- ・異文化の生活様式やマナーの違いを学べる講義
- ・日本の神話(古事記など)
- ・原爆ドームのフィールドワーク
- ・多くの外国人(様々な国の人)との交流

これらの回答より、受講生が多様な期待感を持って講義に臨んでいたことがうかがえる。本講座の趣旨に照らして、「日本文化紹介、異文化間コミュニケーション」をキーワードにさらに調整するべきであると考えられる。

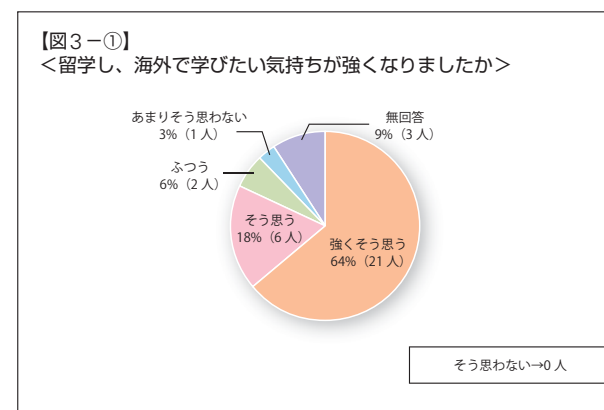
**Q5:** 「今回受講したプログラム(留学支援)以外で、受講してみたいプログラムのテーマがあれば記載してください」5名の回答者から、「英語を話す人たちの交流会」「日常英会話」「留学の体験談」「キリスト教が影響を与えたもの」「様々な国の生活文化」のテーマが挙げられた。

これらの回答から、留学する際の不安を取り除くような実践的な講座に興味を持っていることがうかがえる。



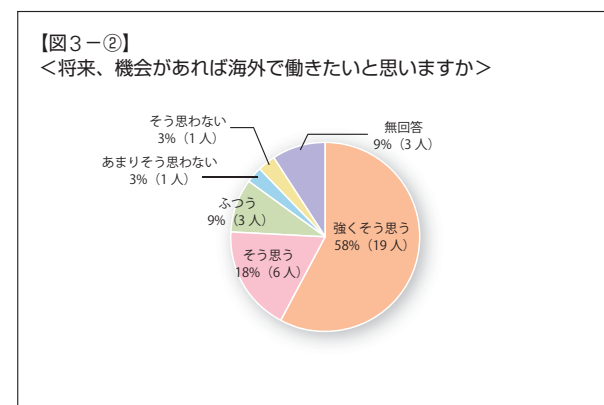
▼ [3] 現在の留学に対する意識について

**Q1:** 「留学し、海外で学びたい気持ちが強くなりましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図3-①である。82%の回答者が“強くそう思う”“そう思う”と答えており、本講座に参加して留学への意識や意欲が高まったと考えられる。回答者からも「たくさんの分野の講義が開け、英語での講義も楽しく、留学したい気持ちが強まった」「今まで知らなかったことをたくさん知れて、留学への意識が高まった」などの記載が多く、講義で新しいことを知り、学ぶことにより視野が広がり、留学に対する意識がより高まったと考えられる。



**Q2:** 「将来、機会があれば海外で働きたいと思いませんか」という質問に対する回答をまとめたものが図3-②である。

“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者を合わせると76%であり、比較的多くの参加者が海外で働いてみたいと思っているようである。講座参加前から留学を予定している者が多かったため、もともと海外志向の強い参加者が多かったことが予想される。「日本のことも世界のことも知れて、より一層外国に行きたくなった」「しっかり将来の役に立てられるよう頑張る」という記載からも、本講座を通して留学への不安が解消され、コミュニケーションスキルや知識の習得に対する意欲が高まり、将来海外で活躍する自分の姿をより現実的に思い描けるようになったのではないだろうか。



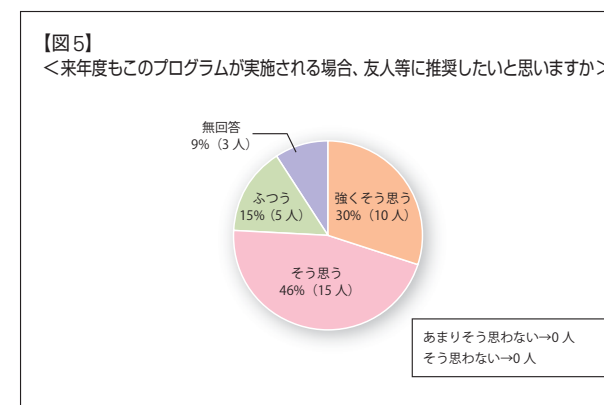
▼ [4] 留学の予定

回答者のうち約45%が留学を予定しており、予定留学先はアメリカ、オーストラリア、ハワイ、ニュージーランド、フィジー等の英語圏の他に、ロシア、韓国、中国などの非英語圏の国を記入した回答者もあった。留学時期は、「夏」「来年」「大学2~3年の時」、留学期間については多くが6か月~1年と回答する中で、「2週間」「20日」など、短期滞在を予定している回答者もいた。留学の目的については「語学力向上」が最も多く、続いて「交換留学」や「文化理解」等の回答もあった。

▼ [5] その他

「来年度もこのプログラムが実施される場合、友人等に推奨したいと思いませんか」という質問に対する回答をまとめたものが図5である。

“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者を合わせると76%であり、“あまりそう思わない”、“そう思わない”との回答がないことから、多くの参加者が本講座を他者への推薦に値する内容であると評価している。さらに、「また機会があれば参加したい」との意見もあり、参加者がもう一度受講したいと思える講座であったと考えられる。





### 3：今年度の考察

アンケートの結果から、多くの参加者が講義内容に興味・関心を持って取り組み、理解を深めたことが読み取れる。全15回の講義を通して、留学前に必要とされる多分野における知識を習得し、さらに自分の意見を相手に伝えるコミュニケーション力を養うことができたことによって、留学の目的や今後について、一人ひとりがより深く、より広い視野を持って考えるきっかけになったのではないだろうか。参加者からも「留学支援プログラムを通して、今までに体験したことのない物に触れることができた」「全15回の講義で様々なテーマを学び、学びたいことが以前より増えた」などの意見もあり、参加者が今まで触れることのなかった新しい分野を学ぶことで、それらを身近に感じて興味を持ち、将来の可能性を広げることができたと考えられる。

今年度は参加者39名(2013年度より約40%増)での開講となった。そのうち30名は15回全ての講義に出席し、全体の平均出席率も約90%となった。さらに、多くの参加者は講義開始前の早い時間に会場へ到着し、前回の講義の復習や、事前に配付した当日の講義資料を用いて予習を行うなど、意欲的に講義に取り組む姿勢が見えた。全ての参加者が講義に真剣に取り組む中、中には講義後も担当講師に質問をする受講生もいた。更に、講義後のアンケートには「もっと話が聞きたかった」との回答もあった。また、昨年度、講義レポート回収率の低さ(78%)が課題の一つとして挙げられた。そこで今年度は、各講義レポート用紙の色を他の資料と区別しやすいよう、黄色とし、各講義終了後に記入の時間を設け、レポートの記入・提出を促した結果、回収率は98%以上となった。

この講座では、外国の文化や習慣だけでなく、日本や広島のことだけでなく、日本について学べてよかった」「留学する時は日本や広島のことを英語で伝えたい」との声もあった。自国の文化と歴史を学び知ることによって他国を理解し、さらに比較することで、より深く学ぶことが可能となる。自身の住む国や町を知ることは、欠かすことができない留学準備であると、多くの参加者が気づき、真剣に取り組んだ。

今年度は、IAMSCU(International Association of Methodist-related Schools, Colleges, and Universities メソジスト関係学校国際連盟)の世界大会が広島で開催されるにあたり、世界約40カ国から300名近くの学校代表者および青年が集まる開会式への参加が実現した。受講者からは「式典の雰囲気を感じることができた」「外国人の方が多く、少し外国にいる感じがした」などの声があった。さらに、外国人出席者や、外国人講師に声をかけ、国際的な現場でのコミュニケーション能力を発揮した受講生もいた。

全講義を終えてのアンケートでは、肯定的な意見・感想がほとんどで、「宗教や音楽の違い、平和についての講義は留学に直結している感じがした」「どの授業も自分の知らないことを教えてもらえてとても勉強になった」「学校で経験できない事をたくさんできたので、講義をとってよかった」との感想があった。これらの意見は今後もこのような講座への参加意欲を示すものであり、本講座が留学を目指す高校生・大学生が学びたいことが凝縮されている講座であったといえるだろう。



Forever Onward



## 〔三年間のまとめ・今後の課題〕

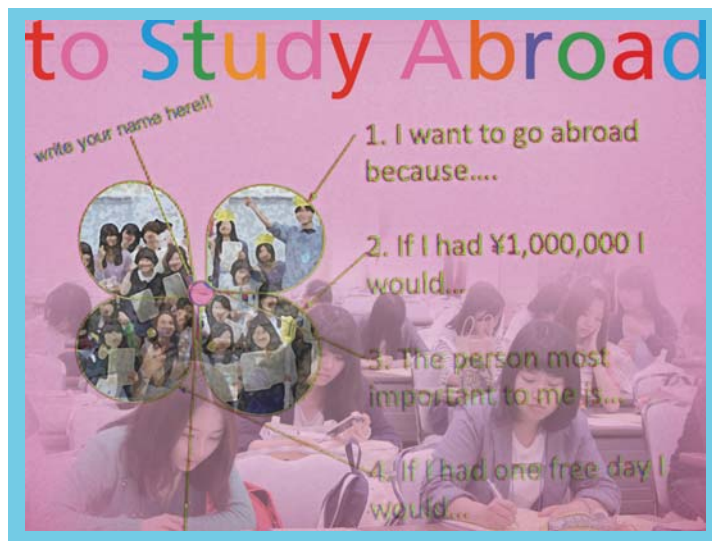
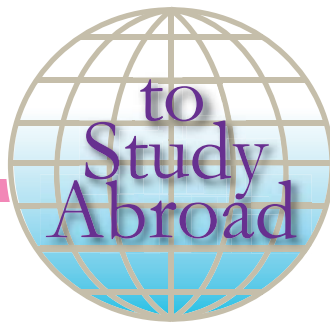
本講座は全15回講義のうち、半数以上の講義は英語で行われた。アンケート結果から、多くの参加者は「英語による講義のレベルは適切であった」と回答しているものの「英語の講義は難しかった」という意見も目立った。今年度実施したアンケート調査からも、参加者でTOEIC受験経験があると回答した者は全体の約27%、また400点以上と回答した者はわずか2名だった。前年度実施のアンケート結果からも、英語が得意でない参加者にとって、英語で行われる講義は難しかったように読み取れる。全ての講義を理解するために、参加者にはより高い英語力が求められる講座といえるが、高校生をはじめ、英語での講義を受講する機会が少ない参加者には、講義そのものもとより、「理解することが難しい」という体験そのものが、貴重な経験になったとも考えられる。

講座出席率をみると、今年度は90%、2012・2013年度も70%前後と、高い数値である。しかし、高校生だけに注目すると、出席者数・出席率共に高いとは言えない。その理由の一つとして、本講座は全て週末実施のプログラムであり、この時期、週末の学校行事(体育祭・文化祭・参観日など)が重なるため出席できないことが挙げられる。より出席しやすいスケジュールづくりが望まれる。そうすることで、より多くの高校生が講座に参加することができると予測される。

講義内容については、文化・国際問題・平和・経済・宗教・芸術などの多くのテーマを取り入れた。そのため、ほとんどの参加者が満足のいくものであったと回答しているが、特に高校生からは「講義の難易度が高い」との声も多かった。しかし、高校生が大学で行う講義を体験し、大学生と共に学びお互いに刺激し合うことも本講座の目的である。そのため、大学レベルの講義を参加者全員が理解できるよう、高大連携による講座を実施する場合には、各自予習が行えるよう講義資料やシラバスの事前配付など、早めの検討・調整・準備が鍵となる。

最後に、本講座は2012年度から今年で三年目となる。高大連携で実施される留学に向けた集中講座は珍しく、アンケート結果からもうかがえるように、毎年度、本講座を歓迎する声が多かった。参加者も全15回の本講座を通して、自身の留学や将来について、受講前に比べ、より具体的に見えてきたのではないだろうか。





「世界の誰かと…」



広島女学院大学



県立広島大学



エリザベト音楽大学



広島国際大学

●連携校：広島女学院大学・県立広島大学・エリザベト音楽大学・広島国際大学